

5月20日～5月26日 商品検査実績

●微生物検査 263 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 63 検体

食品添加物検査	24 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	今週は実施しておりません。	
簡易農薬検査	10 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今週は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
米鮮度判定	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルゲン検査	今週は実施しておりません。	
ヒスタミン検査	10 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
放射性物質検査 (スペクトロメータ※①)	9 検体 (米 2 検体、野菜 5 検体、果物 2 検体) 実施しました。全て検出下限値 (約 20Bq/kg) 以下となりました。	
放射性物質検査 (サーベイメータ※②)	今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：<sup>しゃへいたい</sup>遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：<sup>しゃへいたい</sup>遮蔽体無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定

組合員さんの

## 想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品運用にいかす取り組みをしています。



組合員さん VOICE

マリンフード(株)の「私のヴィーガン」シリーズの取り扱いをお願いします。27品目のアレルギー不使用なので、アレルギーがある子供のために近所のスーパーで取り扱いをお願いしたのですが、購入者が少ないためか3ヶ月程で店頭からなくなってしまいました。乳アレルギーの子供には貴重な商品なのでぜひ生協で取り扱って頂けると助かります。

## 実現しました

商品のリクエストをいただきありがとうございます。複数の組合員さんからご要望をいただき、商品について検討した結果、6月4回企画

の【よりすくり】紙面内の【いきいき日和】で「私のおいしいヴィーガンソフト」を案内できることになりました。ヴィーガンとは、ベジタリアンの中でも衣食住の生活全てにおいて動物性の使用を極力避けている完全菜食主義者の方々のことです。この商品は動物性原料を一切使用せず、27品目のアレルギー不使用のスプレッド商品です。また、7月4回には植物由来の原料をベースに作ったチーズ様の商品も案内いたします。



## 今月のお知らせ たまごの取り扱いについて



たまごには、たんぱく質や、ビタミン、ミネラルなどの栄養素が含まれており、私たちの食生活に必要な食材の1つとなっています。しかし、取り扱いが悪ければ、食中毒を起こす細菌が増殖することにつながってしまいます。購入後は冷蔵庫で保存し、生で食べる場合には、賞味期限と殻にひび割れがないことを確認し、食べる直前に殻を割って使用する。加熱調理する場合も、調理後は早めに食べる。わずかでも殻にひび割れがあると、ひび割れ部分から細菌が入り込むことが考えられます。ひび割れたたまごは、十分に加熱(75℃1分以上が目安)調理するか、いつひび割れたか判らない場合は、思い切って食べるのをやめましょう。



## 商品検査レポート 4月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

微生物検査	検査数	特に問題となる商品はありませんでした。								
	880									
理化学検査	検査数	主な検査項目	食品添加物	簡易農薬	畜種判定	残留農薬 (※子供検査欄へ参照)	ヒスタミン	カビ毒	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。	
	356		60	50	6	4	47	4		
放射性物質検査 (NaIシンチレーション スペクトロメータ※①)	検査数	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日記	飲料	検査の結果、 全て検出下限値 (20Bq/kg)以下でした。
	54	14	14	5	9	4	5	2	1	
放射性物質検査 (NaIシンチレーション サーベイメータ※②)	検査数	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が ※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド) 以内となりました。					
	15	7	4	4						

※①NaI(エヌエーアイ)シンチレーションスペクトロメータ:遮蔽体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaIシンチレーションサーベイメータ:遮蔽体無しを持ち運びできる機器:ガンマ線量を測定

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線が宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

